



# 若き心

## 集まるどころ 3月 (NO14)

茅ヶ崎市立鶴が台中学校長 山口 茂

令和5年3月24日

### 3月24日に修了式を行いました

修了式では、代表の生徒に修了証をお渡ししました。その後の学活で担任の先生から一人ひとり修了証を受け取り、1年生、2年生の皆さんは、それぞれの課程を無事修了したことになります。4月からは、新しい学年に進級し自分の目標に向かって頑張ってください。

### 修了式で生徒の皆さんにお話ししたこと

今日で令和4年度が終わります。皆さんは、この1年間で、授業や行事を通して多くのことを学んだと思います。学んだことによって、自分の考え方や、判断の基準、行動がどのように変化したのか、最終日の今日、振り返ってみてください。

今年度のはじめ、皆さんに「不必要な区別や差別をなくしていこう」というお話をさせていただきました。それに合わせて、4月から、集会のときの整列方法も男女1列ずつという“当たり前だ”と思っていた並び方をやめました。

夏休み明けの学校便りではルイス・ベーダー・ギンズバーグさんの話を掲載しました。

卒業式の学校長の言葉では、3年生の生徒の話をさせていただきました。

今日は、皆さんにも、その話をさせてもらいます。

彼は、12月に行った面接試験の練習の際に「中学校時代、一番思い出に残っているのは運動会です。僕の車いすのスピードを考慮して、ちょうどよいスタート地点をみんなで考えてくれたので、全員リレーに参加することができました。みんなと同じようにレースに参加できてとても嬉しかった」と話してくれました。

皆さんは、このエピソードを聞いてどのように感じましたか。

想像してみてください。もし、クラスメートの中に目が見えない子がいたら。耳が聞こえない子がいたら。発達障害を抱えている子がいたら。

例えば、運動会の場面で“あいつは耳が聞こえないから一緒に運動会はできないよ。だって危ないかもしれないじゃん”と考えるか、“どうすれば みんなで一緒にできるか”を最優先に考えていくか。

私は、鶴が台中学校が“どうすればみんなで一緒にできるか”を大切にしていける学校であってほしいと思っています。

新しい学年になっても、“一人ひとりが大切にされる学校”を皆で目指していきましょう。

# 令和4年度 学校評価アンケート まとめ

「楽しく安心した学校生活が送れていますか」という質問に対して、約9割の生徒が肯定的な回答をしています。しかし、学年別にみると、1年生で肯定的な回答をした生徒が81%にとどまっています。次年度以降、この割合を増やすことができるようにしていく必要があります。

「まちがったことをしたとき、きちんと指導してくれますか」という質問に対しては、9割以上の生徒が「きちんと指導してくれる」と回答しています。特に「とてもそう思う」と回答した生徒の割合は56%であり、教師が適切な指導を行っていることがうかがえます。

「教え方を工夫していますか」という質問に対して、肯定的な回答をしている割合は、生徒が90%なのに対して、保護者は75%と開きがみられました。生徒に比べて保護者の肯定的な回答の割合が低くなっている原因として、コロナ禍で授業参観等ができなかったことなどが考えられます。

「何かあったら相談できる人が校内にいますか」に対しては約9割の生徒が「いる」と回答しています。また「問題やトラブルが生じたとき、先生方は迅速に誠実に対応していますか」に対しても9割の生徒が「迅速に対応してくれている」と答えています。これらのことが、「楽しく安心した学校生活を送れている」ことにつながっていると考えられるので、来年度も継続していきたいです。

「タブレットを使用することで学びが豊かになっていますか」という質問に対して9割以上の生徒が「学びが豊かになっている」と答えています。タブレットを使用することによって、わからないことをすぐに調べることができたり、考えを共有することが効率的に行えたりすることで、より深い学習につながっていることがわかります。

「人の話をしっかり聞くことができますか」に対しては9割以上の生徒が「聞くことができます」と答えているのに対して、「自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝えていますか」については肯定的な回答をした生徒の割合が75%になってしまっています。この結果から、自分の気持ちや考えを上手に伝えることができていない生徒が多くいることがわかります。特に1年生は、肯定的な回答をしている生徒が67%であり、学年の生徒の1/3が、自分の考えや気持ちをうまく伝えることができていないと答えています。他者とコミュニケーションをとる大切さや必要性について折に触れて説明し、わかりやすく話すスキルを高めていく必要があります。

「どのように評価されているか知っていますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合は81%でした。しかし、1年生で「知っている」と回答している生徒の割合は57%であり、半数近くの生徒がどのように評価されているかわからない状態であることがみてとれました。1年生の時から“どのように評価されているのか”より丁寧に説明する必要があります。

「火災や地震のときの対応を家庭で話し合っていますか」について、話し合っているご家庭は73%であり、約1/4のご家庭ではそのような話し合いがされていないことがわかりました。学校便りなどを通して、各ご家庭で非常に備える話し合いをしてもらえるよう投げかけていく必要があります。

『一人ひとりの違いを認め合い、尊重できる学校』というスローガンを意識して行動していますか』では、肯定的な回答をしている生徒が69%でした。今年度のスローガンが生徒に十分に浸透していない結果でした。運動会や合唱コンクールなどの行事に絡めたり、全校集会の講話の中に関連する話を盛り込んだりする必要があります。反面、保護者の回答では8割以上の方が「スローガンを意識した教育活動がなされている」と回答してくださっています。学校便りやHPを活用して各ご家庭に今年度の重点目標を伝えた成果であると考えられます。

「環境美化に努めているか」という保護者向けの質問に対して、94%の保護者が肯定的な回答をしています。保護者会の方や地域のボランティアの方の協力で、体育館の前の花壇などに常にきれいな花がみられることが肯定的な回答の多さにつながっていると思われます。